



人権教育だより

令和6年度

1学期号

島根県立大東高等学校

今年度、初めての「人権教育便り」です。大東高校で行っている人権教育について保護者の皆さまにお伝えし、お子様と一緒に「人権」について考えていただけたら、と思います。

さて、「人権」というと何か構えてしまうところがありませんか。「人権」とは、人間らしく幸せに生きていくことができる権利で誰もが持っているものです。それを、一緒に大切に守ることが「人権を尊重する」ということになると思います。大東高校では「**自己を大切にすると共に、他者を思いやることのできる心豊かな生徒を育てる**」ことを教育目標に掲げ、取り組んでいます。

1学期：人権教育ホームルームを実施しました

1年生 ～言い方次第で気持ちも変わる～



日常の学校生活において、自分の感情のままに発言することや相手との関係を保とうとするあまり自分の主張ができていくことは、少なからず起こります。そこで、日常で起こり得る場面を設定してロールプレイを行い、その時の自分や相手の気持ち、周囲で見聞きした人の気持ちを確認しました。そして、どういう言い方をしたらベストなのかグループで話し合いました。

- ✎ 言い方によって、言う側も受け取る側もお互い気持ちが全く違ってくるのだと改めて感じました。
- ✎ 相手のことを気遣いながら自分が思っていることを伝えるのはすごく難しいんだと思いました。
これからは思ったことをすぐ口にするのではなく、考えて発言したいです。
- ✎ 断ったり強く言ったりすると相手に嫌な気持ちにさせてしまうし、普段は(その人のことを)好きだし楽しいから言えませんでした。ですが、今回の授業をとおして、どのような言い方がベストなのか知ることができました。
- ✎ 攻撃型と受容型はどちらかという受容型のほうがいいのではと思いましたが、どちらもあまりよくない言い方なのだとわかりました。
- ✎ 日常でも私は思っていない相手がいやな思いをしていることを言っているときがあるかもしれないので、ひとつひとつの発言に気をつけていきたいです。

～生徒の感想より～

織部祭 講演会のご案内

9/2 織部祭1日目 フォトジャーナリストの安田菜津紀さんの講演会を企画しました。「サンデーモーニング」という番組のコメンテーターとしても活躍していらっしゃるなので、ご存じの方もいらっしゃると思います。この社会で「共に生きるとは何か」ということを、安田菜津紀さんから写真を通して講演を聞き、私たちに何ができるのかを考えます。

2年生 ～ハンセン病問題から学ぶ～



ハンセン病をご存じですか？奥出雲町の亀嵩がひとつの舞台となる小説『砂の器』（松本清張著）や『あん』（ドリアン助川）などにも背景としてハンセン病の問題が描かれています。いずれも映画やドラマにもなっていて耳にしたことがある人もいらっしゃると思います。生徒の皆さんも聴いたことはあるという人は結構いました。ただ、どんなことが起きたのか知っている人はわずかでした。

ハンセン病は、感染力が弱く、治療薬もあり完治する病気です。過去、ハンセン病に関する国の誤った施策でハンセン病に関する差別・偏見を引き起こしてしまいました。今回の授業では、世間一般やハンセン病回復者をとりまく人々のハンセン病に対する正しい知識・理解の欠如が差別・偏見につながったことに重点をおきました。ハンセン病に対する差別・偏見は今も継続しています。生徒たちは、差別解消のために自分ができる行動は何かを具体的に考えました。



- この病気について私も知らなかったら差別をしていたと思うので、知らないということも罪だなと思いました。
- ハンセン病に限らず治る病気なのに差別されている病気について私たちから知ることが必要だと思いました。
- ハンセン病だけではなく、他の病気になどにも、知らないが故に差別や偏見があると思いました。
- 今後このように傷ついてしまう人が増えないためには、正しく理解し、それを周りの人や差別・偏見を持っている人に伝える勇気と努力が必要だと思います。

～生徒の感想より～



3年生 ～公正な採用選考のために～

毎年、この時期に行っていますが、受験を間近に迎えた3年生が、教員による面接試験場面における面接官と受験生の寸劇を見て、質問事項に問題がないかを考えました。「就職差別につながるおそれのある14事項」について学び、本人の能力・適性に関係のないことを就職採用の資料にすることの不合理さを考えました。

- 2年生の時に部落差別について学習したけど、その内容とつながっていると思いました。就職の際はもちろんだんな場面でも個人の思想やその人の家庭状況によって、その人が差別されたり勝手に評価され価値付けられることは、絶対に許せないことだと思います。今日の授業で初めて就職差別になる質問があることがわかりました。
- これまで、差別は過去の話だと思っていましたが、実際にはまだ多くの場面で起こっていることに驚きました。
- 差別につながる質問には共通点があってその共通点をグループで見つけることができ良かったです。
- 実際面接を受ける立場になったときに、「答えない」という回答は落とされるきっかけになってしまいそうと思っていたけど、自分を公正な立場から見てもうするためにも、「答えられない」と伝えることも大切だと気づくことができました。

～生徒の感想より～

○ 2学期の人権教育ホームルームのテーマは……

1年生:差別と偏見について考える 2年生:ヤングケアラーについて 3年生:結婚差別を考える